

アンケート調査や統計調査の計画・実施・分析，ビッグデータの分析

研究の概要

かつて，社会の様々な場面における意思決定は「KKD（勤・経験・度胸）」がベースとされてきました。ところが，客観的な根拠に基づかないものであったりしたために，必ずしも成功率の高いアプローチといえるものではありませんでした。

しかしながら，高度情報社会となった昨今では，1) データの入手や利活用に対するハードルは大きく低下し，2) とくに定量データをエビデンスとした意思決定に基づく成功例が多数認識されるようになったこともあり，学術研究だけでなくビジネス上の意思決定やエビデンスに基づく政策立案（EBPM）等としても，データに基づき意思決定を行う「データドリブン」によるアプローチが注目されるようになりました。



大台ヶ原（奈良県）での登山者アンケート調査

データドリブンによる意思決定を行うに向けて，分析に必要なデータがすでに手元にあったり，あるいはオープンデータ（公的統計等）で十分であったりすれば新たに調査を行う必要はありません。しかし現実的にはアンケート調査等を実施するなどして，データを入手する必要があるケースが多く，私自身もアンケート調査や統計調査を計画・実施するところから多くの研究を実施してきました。

データドリブンによる意思決定を行うに向けて，分析に必要なデータがすでに手元にあったり，あるいはオープンデータ（公的統計等）で十分であったりすれば新たに調査を行う必要はありません。しかし現実的にはアンケート調査等を実施するなどして，データを入手する必要があるケースが多く，私自身もアンケート調査や統計調査を計画・実施するところから多くの研究を実施してきました。

研究の特徴

例えば以下のような，行政や企業の方が抱えていらっしゃる課題解決に貢献できます。

- ◆ 手元にデータはあるが，どのように分析したらよいかわからない。
- ◆ アンケート調査や統計調査をどのように実施するべきかについて相談したい。
- ◆ 観光客や消費者のニーズや意識，行動の実態等を把握したい。

※これまでの私の研究活動・研究成果等については，右下にあります QR コードのリンクからご確認ください。

行政・経済界・地域と連携した取り組み例

- ◆ 岩手県八幡平市 八幡平温泉郷来訪者の現状分析と今後の観光振興策の提案

若手研究者であることもあり，受託研究・共同研究・学術指導等の実績は必ずしも多くありませんが，観光客・観光地・観光施設・観光資源を対象とした研究を近年も活動的に実施しています。

研究者からのメッセージ

本シーズに関しては私自身の研究のアプローチであるだけでなく，そうした研究成果の審査を学内外で毎年多数担当し，観光学部の講義としても「観光調査法」等の授業を行っているものにもなります。受託研究・共同研究・学術指導・助言・講演等のお申し込みを歓迎いたします。

研究者情報サイト
researchmap



研究分野 : 観光学，環境学，社会・統計調査

研究者の所属部局・職位・氏名 : 和歌山大学観光学部 観光学科・助教・佐々木啓

本件に関するお問い合わせ : liaison@ml.wakayama-u.ac.jp